MT管6AR5から300Bまで対応
各部電圧,電流,回路の切り換えも可能



6L6シングルベース フルコンパチ・アンプの製作・2

ハリー・堀田

Be-Bop Hobby Audio.

「いい音楽」は必ずしも「いい音」を必要としない.

歴史的名演の数々とHi-Fiの相性はよくない. Lo-Fiでこそ聴くに値する音楽もある. 言うまでもないが, Lo-Fiとは「悪い音」のことではない.

録音スタジオに代表される職業的アラ探し現場の「音が見え過ぎる」環境というのは, 個人の豊かな音楽ライフを必ずしも約束しない. クルマに例えればF1のようなものだ. それは公道を走るものではない.

むしろ, 家庭でのオーディオ再生には, F1的なものの排除こそ求められる. ハンドルには遊びが欲しいし, 快適な居住性の, それこそ疲れないための様々な工夫がいる. 見えて欲しくないものはさりげなく隠す「積極的なデフォルメ」も時には必要でさえある. Lo-Fiとはそうした視点である.

逆をいえば, 職業的現場での鑑賞用システムへの転向など「いかがなものか?」愚の骨頂である. とことん疲れていい仕事をしてもらいたいものだ.

「Hi-Fi=高忠実度」の呪縛の連鎖は, 現代オーディオグルメの「おしゃべりなオーディオ」に直結している. 針小棒大と予定調和, 手段を目的に取り違えた「こだわりゴッコ」は風俗現象にまでなったが, 再生オーディオの原風景との接点は希薄だ. "こだわり"とは脅迫観念のスリカエなのだが, それを"売り"にする風潮はなんともおぞましい.

往時, 人々は皆, 粗末なラジオに耳を傾け, 音楽を深く聴いた. 時に涙し, 癒され, そしてじゅうぶんに楽しんだのだと思う.

僕らは「Hi-Fi」を急ぎ過ぎたようだ. 何か大切なものを置き去りにしてきたのではないか. それは「再生オーディオのアトム」かも知れない. 人により見え方は様々だが"貧困なる過剰"はグロテスクに通じる. 僕らは「凄い音」を求めたわけではない.

再生オーディオはホビークラフトと共にあったわけだが, 現代のそれは飽食時代の真っ只中にある.

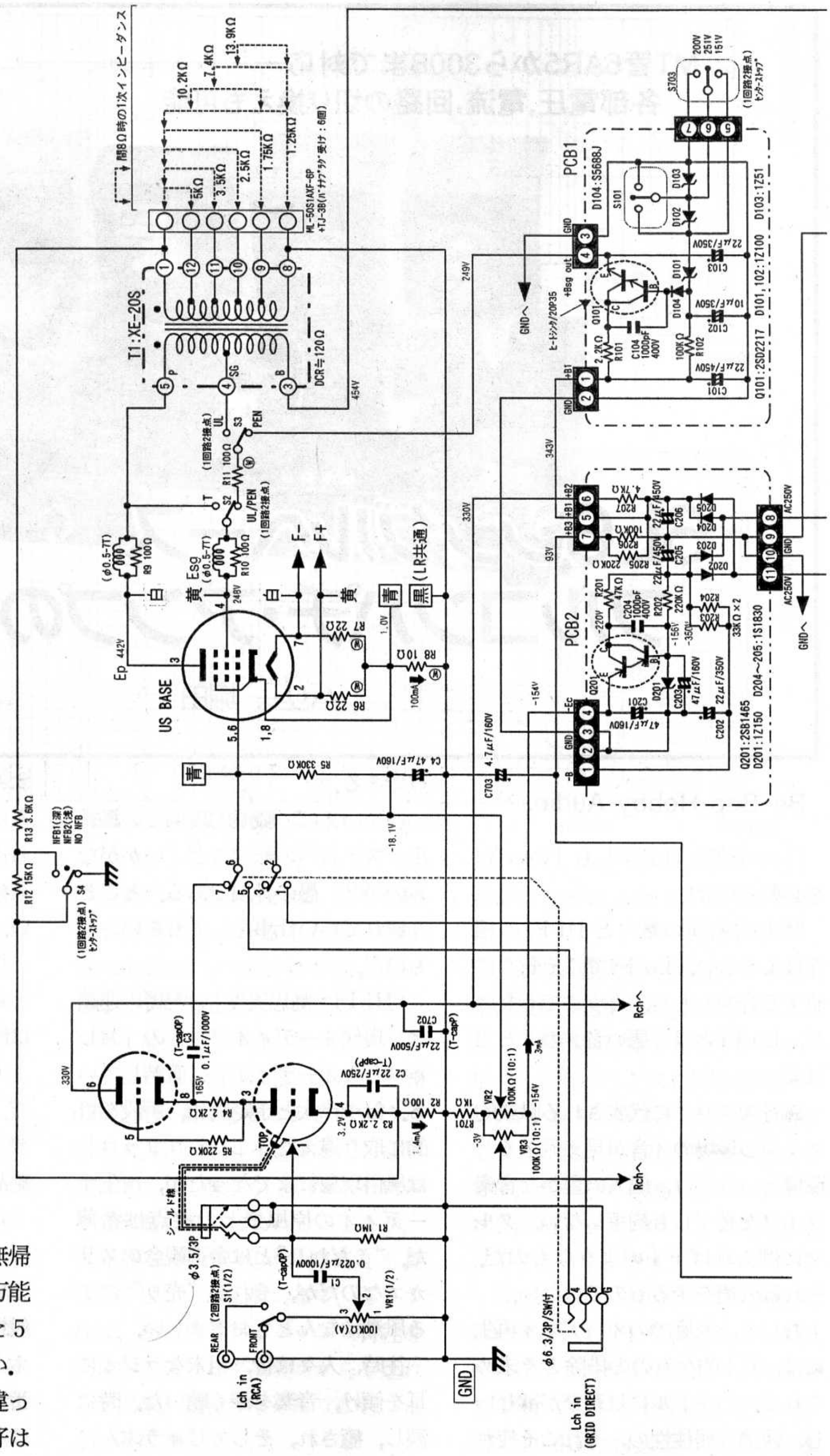
大トロは旨い. だが毎食はゴメンだ. たまにはコハダも喰いたいし, ゲソもいい. 旬の秋刀魚の握りなど絶品である.

ホビーの世界の"こだわりゴッコ"は, 産地別の"大トロ比べ"をやっているようなもので, その結果に一般性はない. 「舌にうるさい」連中にネタを明かさずに食べさせたら, 1番安いヤツを選んだという笑える話は巷にゴロゴロしている. 赤身も鯵も満遍なく楽しみたい向きは, そういうところには近づかないのが賢明だ.

真空管にもそんなところがある.

●6L6ベース・フルコンパチブル・シングル・アンプ総合回路図

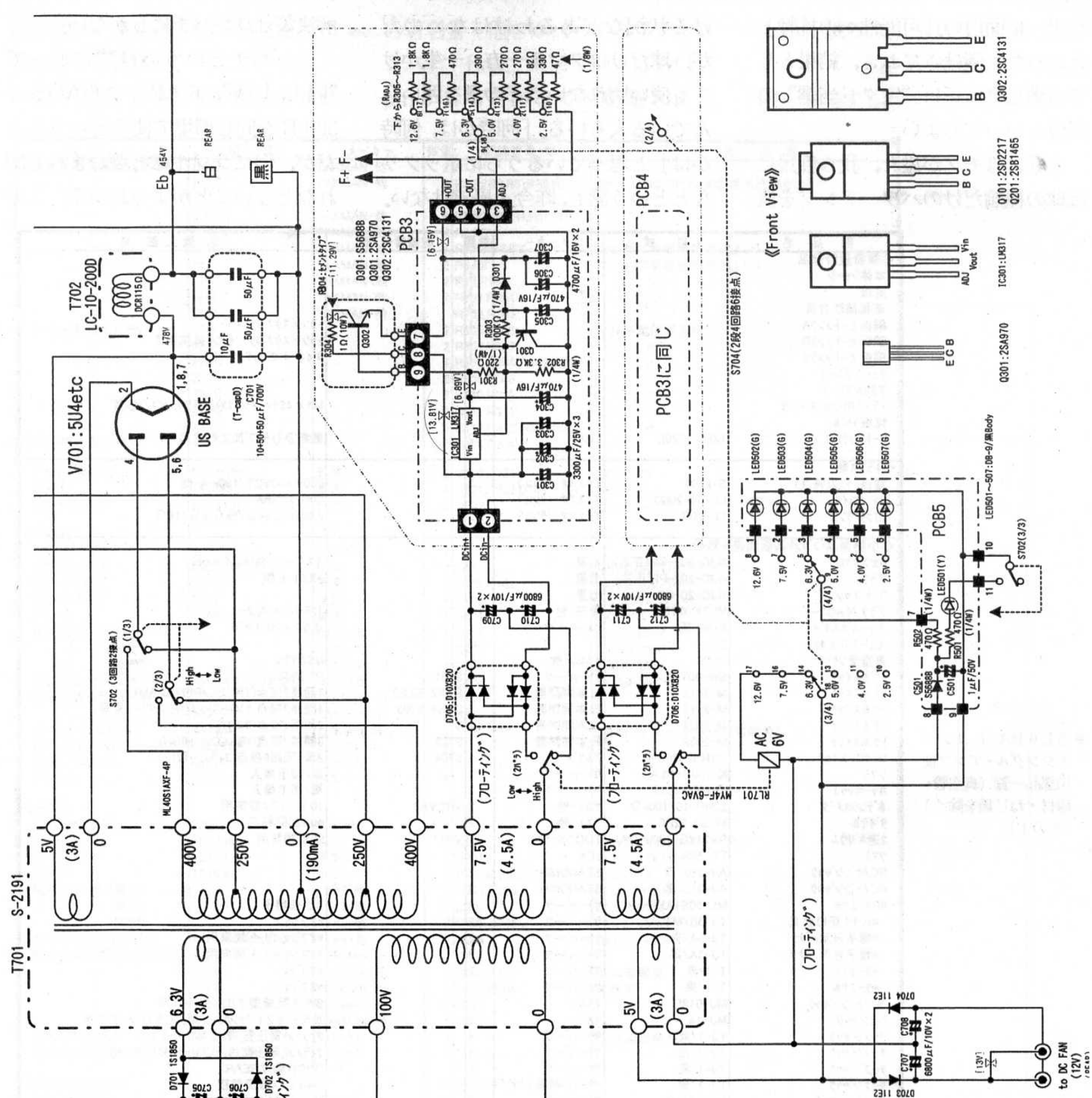
＊電圧・電流値は6550(Ik=100mA)使用時の参考値(整流管：5AR4)
＊Ⓦは巻線抵抗器を表し，指定のない抵抗器は酸金の1～2Wを使用



ハーモニクスたっぷりの3極・無帰還の「脂っこい音」は必ずしも万能ではない．程よく抑制の効いた5極・ビームの清涼感も捨てがたい．聴覚もエージングされる．時々違った環境にさらしてやらないと嗜好は固定化し，思考の固定化にも通じる．

真空管はもともとHi-Fiには馴染まない．その“三ッ星のLo-Fi”であるところの真空管で遊び・冒険する，回転寿司感覚で楽しむというのが本稿のテーマだ．クラフトオーディオの醍醐味は，工作自体を存分に楽しむことにある．

300Bシフトのホビー誌もマンネリで，いいかげん食傷気味．読者諸兄も“次の視点”を渴望している折，クラフトオーディオを楽しむ上での



ひとつのスタイルを提案することにしたい．オーディオライフが一変するかどうかは，自己責任能力と"主体的に楽しめる耳（=感性）"の如何だ．

「一音百態」いい音は人の数×球の数だけある．

コンパチというスタイル

再生オーディオというジャンルで，真空管は先人が残してくれた遺産の中でも量・質ともに傑出している．そんな先人たちに敬意を表し，その労苦に報いるべく，それらを正しく満遍なく消化することにしたい．

「必要は発明の母」と「貧乏性のなせる技」の合作であるコンパチはべ

第二弾の「ドライバー・アンプ」は，
①6F8Gベースの2段増幅トランスドライバーアンプで，ここもコンパチ仕様とする．対象球は6SN7/6BL7/ECC99/12BH7/12AU7/6FQ7/6AV11等．
②300V(rms)越えの出力を有し，あらゆる出力管の単段(ここではブースター・アンプと総称する)ドライブが可能．
③シングル・PP双方のブースター・アンプとのリンクが可能で，シングル用にはCカップル出力も併設．

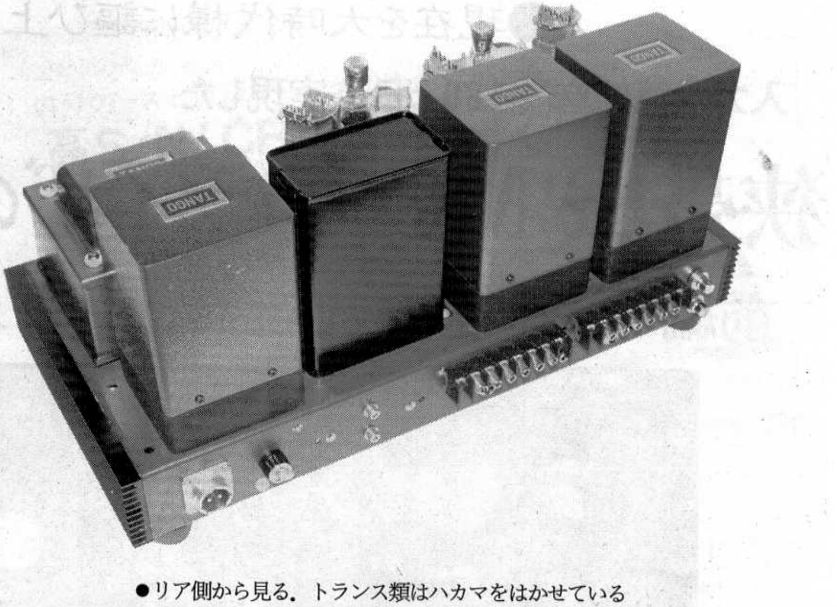
つづく「単段PPコンパチ・ブースター・アンプ」は説明の必要もないだろう．

「211/845ベースの単段シングルコンパチブースター・アンプ」では，一見困難視されているアダプタソケットの製作を中心に，先の「トランスドライバー・アンプ」との組合せでの“コンパチ三昧”をレポートする．

トランス類は，前半は主としてアイエスオー(新生タンゴ)製品を使用．シャーシ・他の1品物については，希望者への頒布も考慮したい．ユニバーサル基板で組んだ部分の基板起こしも考えている．

「新ネットワーク部品使用の“真空管アンプ向け”スピーカ・システム」では，小出力真空管アンプ向きの40cmベース2wayホーン・システムを予定．ユニットのコンパチ他“これからのネットワーク”もレポート．“遊ぶスピーカ”を目指したい．

それらに「EQ・TC・3D LOW-PASS OUT付のプリアンプ」が加われば鬼に金棒，オーディオ工作をたっぷり楽しみ疲れた後は，しばしLo-Fiの心地よい音楽世界に身を委ねることにしよう．順番は前後するかも知れない．



●リア側から見る．トランス類はハカマをはかせている

コンパチの範囲を決める

第一弾は「何でもありのコンパチ」を実現すべく，あれこれの仕掛けのため一見複雑だが，基本はCR結合2段アンプである．

コンパチの場合，ベースを何でやるかということをまず吟味する必要がある．重視すべきポイントは2つ．
①アダプタなしでカバーできる管種の多いこと．
②アダプタ部品が入手しやすいこと．

電力増幅部をUSオクタルの6L6系ベースとしたのは，そうした理由の他に，5極・ビーム接続も対象とできることが大きい．UXをベースとするとこうはいかない．

まず，UXプラグの入手が困難．5極・ビーム接続は対象外となるなど，コンパチ範囲が極端に狭まる．

見方を変えれば，UXベースの古典直熱3極管のみを対象とするならば，仕掛けはいたってシンプルになる．基本部分だけのつまみ食いもよいだろう．

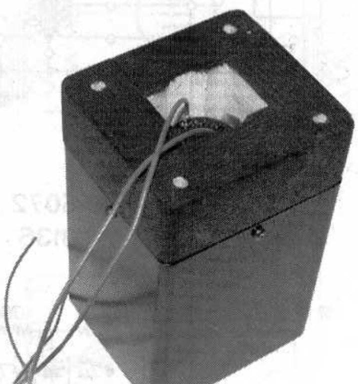
本機の場合，アダプタ装着時に出力管の受けがシャーシ天面とほぼ面一となる構造とし，一見アダプタなしの通常の使用感を求めた．よって，6L6系もストレート・アダプタを介するのを基本としている．

整流管部も考え方は同じである．

電圧増幅部を6C8Gとしたのは①の条件に矛盾するが，ノッポの6C8Gはアダプタなしでいきたいのと，オールSTという「カタチ」にも魅力があるので敢えてそうした．

ここでひとつ問題なのはアダプタを面一にすると，アダプタの手での抜き差しが困難になることだが，簡単な脱着冶具を自作した．アダプタ製作のところでいっしょに採り上げる．

(以下次号)


●ハカマのようす